

平成 29 年度 総会 及び「部門・専門追加合格者による技術発表会」

1. はじめに

道南技術士委員会では、毎年おこなわれる総会の前の時間を利用し、技術士新規合格者による技術発表会を開催しています。

平成 28 年度技術士二次試験において、当委員会から 3 名の技術士が部門の追加・専門分野の追加に見事合格されました。今回は、その 3 名の技術士の方々に合格された部門及び専門分野における技術発表をしていただきました。

日時：2017 年 5 月 26 日(金) 15:00～17:30

場所：函館コミュニティプラザ

G スクエア 多目的ホール

函館市本町 24 番 1 号シエスタ ハコダテ 4 階

参加：30 名

—部門・専門追加合格者による技術発表会—

15:00～17:00

「生物多様性指数から見た河畔林再生」

吉田一雄 技術士 函館市企業局

「建設事業における振動・騒音発生事例」

清水亮輔 技術士 (株)ノース技研

「高流動コンクリートを用いた既設道路護岸の拡幅改良」

原田雄一 技術士 (株)東鵬開発

—平成 29 年度 道南技術士委員会総会—

17:00～17:30

(1) 公益社団法人日本技術士会北海道本部からの活動状況報告

(2) 道南技術士委員会の年間活動報告

(3) 28 年度決算報告及び監査報告

(4) 29 年度事業計画および予算

(5) その他

—懇親会— 17:45～19:45 会場：函館市本町



写真-1 会場風景

2. 技術発表会

(1) 「生物多様性指数から見た河畔林再生」

吉田一雄 技術士 函館市企業局

吉田技術士は上下水道部門(下水道)に加え、森林部門の追加合格者です。



写真-2 吉田技術士

一般的に河畔林と言われている林は、河川上流域の山地河畔林と中下流域の河畔林、そして山地溪畔林、湖畔林、湿地林など地形的な分類ができ、その地形的特性により繁茂する樹種に違いがあることな

どを解説されました。

また、函館市内の水道施設笹流ダム周辺の河畔林を例にとり、生物多様性が豊かな天然河畔林とはどのようなものなのかを樹木の植生分布のグリット図を作成し、シャノン・ウィーバー指数やシン普森多様性指数などから生物多様性指数を算出し評価する方法を発表されました。

(2)「建設事業における振動・騒音発生事例」

清水亮輔 技術士 (株)ノース技研

清水技術士は建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)に加え、建設環境専門分野合格者です。



写真-3 清水技術士

建設工事に伴う振動・騒音で近接家屋に及ぼす影響を、実施した事業損失防止評価業務から振動騒音の測定結果と解析評価を発表されました。会場では、実際に使用した測定機器の解説や床に振動センサーを設置し、対象となる振動とはどのような規模のものなのかを詳しく解説されました。

また、実際の建設工事現場で基準値以上の振動騒音が想定された建設機械の使用や工法を、事業損失の観点から施工方法を再検討し提案するなど、詳細な経験業務内容が発表されました。

(3)「高流動コンクリートを用いた既設道路護岸の拡幅改良」

原田雄一 技術士 (株)東鵬開発

原田技術士は建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)に加え、鋼構造及びコンクリートの専門分野の追加合格者です。



写真-4 原田技術士

道路改良工事に伴う海岸擁壁護岸の嵩上げ改良工事の工法検討について発表されました。既設の海岸擁壁(波返し護岸)には、海側前面に波浪減衰機能を備えたブロックが設置されており、最も経済的な工法は、そのまま既設擁壁を利用し、ブロック前面に腹付けコンクリートを施工することでありました。

しかし、通常規格のコンクリート材料では複雑な形状のブロック内部までコンクリートが充填出来ず、如何にしてコンクリートを打設するかが課題でした。そこで、高流動コンクリートを採用することで様々な施工条件をクリアし、安全で品質を確保した施工が可能となりました。

3. 平成 29 年度 道南技術士委員会総会

北海道本部から本部長 森氏が出席され、日本技術士会の活動状況が報告されました。

道南技術士委員会代表、布村氏からは平成 28 年度の活動内容を活動報告誌「一步」を資料として報告されました。また、私、奈良(幹事長)より、平成 28 年度決算報告と 29 年度事業計画、予算計画を報告させていただき承認されました。

4. おわりに

毎年の総会時に、新規合格者、部門、専門分野追加合格者に技術発表をお願いしておりますが、いつも皆さん快く引き受けて下さいます。さすが技術士なのだと感じます。来年もまた新規合格者の発表会が企画出来ますように。